

第七回「伝統と現代研究会」

「伝統演劇を知る4」

～能『俊寛』と文楽・歌舞伎『平家女護島』の比較研究～

伝統演劇には、現代の演劇を展開していく上で、豊かな題材、演劇的知、身体技法が秘められていて、まさに宝の山と言えます。

この研究会では、伝統と現代というテーマを考える足掛かりをもとめて、これまで「伝統演劇を知る」と題し、「道成寺」、「俊徳丸伝説」、「安宅」をモチーフとする演劇の数々に的を絞り、伝統演劇の中に息づく創造力や身体技法の知恵を探ってきました。その好評だった成果を踏まえ、第七回ではさらに展開して、『平家物語』を題材とした「俊寛物」の系譜に注目し、特に能『俊寛』と文楽・歌舞伎『平家女護島』を中心に比較研究を試みます。

また、それとともに「俊寛物」の近・現代への展開として、倉田百三の戯曲『俊寛』、菊池寛や芥川龍之介の小説『俊寛』、現代演劇の川村毅の戯曲『俊寛さん』も取り上げます。実際の貴重な上演映像や音源を視聴しながら、参加者で自由に相互の比較やディスカッションを行います。もちろん、第七回目からの新たな参加も可能です。普段あまり伝統演劇に出会うことのない方も、それぞれの特色、魅力、面白さを知るまたとない機会ですので、どうぞ奮ってご参加ください。

能『俊寛』 担当 岡本章

『平家物語』を素材にして、鬼界ヶ島という絶海の孤島に一人残された俊寛の過酷な運命と絶望を描く。舞はなく、劇的な展開を見せる異色の能で、極限状態におかれた人間の姿が浮かび上り、後世の芸能、戯曲、小説に影響を与える。

文楽・歌舞伎『平家女護島』 担当 篠本賢一

人形浄瑠璃の時代物で近松門左衛門作。特に、二段目の「鬼界ヶ島の段」（通称「俊寛」）が有名で、早くから文楽や歌舞伎で独立した段として演じられる。近松の新しい解釈で、受難の人から、自分で島に残る英雄的な人物に再創造されている。

倉田百三 戯曲『俊寛』 菊池寛、芥川龍之介 小説『俊寛』 川村毅 戯曲『俊寛さん』

担当 川口典成

「俊寛物」の系譜は、大正時代に倉田百三の戯曲や菊池寛、芥川龍之介の小説を生み出す。それぞれの読み込みにより独自の俊寛像を描き出している。さらに劇作家川村毅の『俊寛さん』は、現代のサラリーマンの姿をそこに重ね合わせている。

日程 2024年8月31日（土）15:00～

会場 アトリエそら（東上線 中板橋駅 南口5分）

参加費 500円（資料代など）

定員 15名ほど（オーバーした場合は会場変更して対応）

参加申し込み方法 メールにて受付 norishigekawaguchi@gmail.com

研究会 実行委員

今井尋也 岡本章 川口典成 篠本賢一 角直之 流山児祥